

いのちの重さを

俳優 吉永 小百合

先の戦争で、日本は三〇〇万人の犠牲者を出し、二〇〇〇万人の世界の人々の命を奪いました。私は、その戦争が終わる五カ月前、東京大空襲の三日後に産声をあげました。「もし父が戦死していたら、今、私はこの世に存在しない。」そう思うと、「生きる」ということの大切さを、強く感じます。

隊の海外派兵が必要」と、政府は言います。なぜ武器を持った兵隊でなければ、国際貢献が出来ないのでしょうか。世界中で戦いやテロがくり返され、それを解決するという理由から、また大量の兵器が使われ、多くの犠牲者を生んでいるのが、現状です。

いく一報復ではなく、半歩でも一歩でも歩み寄ることが、「言葉」を持つ私たち人間の使命だと思えます。

今、日本は世界有数の軍事費を使い、戦争への道を進もうとしています。私たちがしっかりと考えて行動しなければ、大変なことになる。仕事仲間とも友達とも話し合って、みんなが声を出したいと思えます。

命を大切にすることは、憲法9条を大切にすること。国際紛争を解決する手段として、武力の行使は永久にしないと定めた

東北の天台宗で、私は毎月法話を行っている。青空説法だが、

全国から数千人の人々があつまってくる。

私は感動で泣きそうになるのをこらえ、少年にいった。

事務局長より

戦死せる教え児よ

近いて還らぬ教え子よ
私の手は血まみれだ！
君を縫ったその細の
端を私はもっていた
しかも人の子の師の名において
嗚呼！

この詩がウイーンの第一回世界教員会議（一九五三年）で紹介され、代表団のひとり、羽仁五郎さんがドイツ語でこの詩を放送したとき、ウイーン放送局のアナウンサーが、ハンカチで顔をとおおい嗚咽したといわれています。

先月、時間も終わりになりました。私の足元から声がした。

「死にたくないから。だってぼく、やりたいことが一杯あるんです」

●「憲法9条を守ってください」の署名は先の国会で否決されました。新しい署名用紙で署名をお願いしています。今まで署名していただいた方にも、再度、お願いしていただきたい。手回のかかることはかりお願いいたします。

「お互いにだまされていた」の言訳が
なんでできよう
慙悔 悔恨 懺悔を重ねても
それがなんの償いになろう
今ぞ私は汚濁の手をすすぎ
涙をはらって君の墓標に誓う
「繰る返さぬぞ絶対に！」

この詩がウイーンの第一回世界教員会議（一九五三年）で紹介され、代表団のひとり、羽仁五郎さんがドイツ語でこの詩を放送したとき、ウイーン放送局のアナウンサーが、ハンカチで顔をとおおい嗚咽したといわれています。

「このままいけば、憲法が改定され、九条がなくなりそうです。すると、ぼくは戦争へ征かされそうです。それはいやです。

「それが、憲法が改定されないよう戦いましょう。一緒にがんばろうね」

●九月三日「九条の会・城北」と「岸和共同センター」が共同して、春木旭町へ署名のお願いに回りました。二七名で466軒訪問し、116筆の署名が集まりました。10月29日は、東が丘町で署名のお願いに回ります。

中学教師 竹本 源治
一九五二年発表

憲法・教育基本法を守り、生かしましょう

子どもたちに平和な未来を

11月11日(土)

午後2時開場
岸和田市立文化会館
マドカホール

岸和田・九条合唱団
野田淳子トーク
& コンサート
お話し 久田 敏彦さん
(大阪教育大学教授)

参加費 500円

（「腹の底から憲法でいこう」憲法9条・メッセージプロジェクトから）